

## 「中国・浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部4年 (伊藤 泰)

## ① 学習成果

私は今回のプログラムに参加し、実際に浙江大学の学生や教授と話すことで、中国語はもちろん、自分とは異なる考え方、意見を数多く学んだ。この経験を経て私はより多くの異なるバックグラウンドを持つ人と話し、意見を聞いてみたいと考えるようになった。次の留学計画はまだしていないが、海外に行ける時勢になったら様々な国に行ってみたいと思う。また今回は現地に行くことができなかったため、いつかは杭州に行って今回交流のあった生徒に会ってみたいと思った。

## ② プログラム内容と経験

今回のスプリングスクールでは多くのことを学んだ。一つ目は中国語だ。私は中国語初心者であり、初級者クラスで授業を受けた。中国語初心者の私にとってはピンイン、四声を正しく発音することが困難であり、自分が言ったことが先生に伝わらないことも多かったが、教授には丁寧に指導していただき、二週間で多くの単語、表現を学ぶことができた。また授業のアシスタントの学生と一対一で発音練習を行う時間も設けていただき、より細かい指導を受けることもできた。二つ目は中国と日本の文化、政治的な考えの違いである。授業や浙江大学の学生との交流を通して、中国の文化、また私が気づいていない様々な日本文化の一面を知ることができた。特に興味を持ったのは中国、杭州のお茶の文化である。古来より中国人がどのようにお茶を飲んでいたのか、またそれがどのように現代に受け継がれているのかを学んだ。また浙江大学生との交流では、日本のウォシュレットトイレについて興味がある学生から質問を受けたり、日本の寺と神社の関係について聞かれるなど自分でも深く考えたことがなかった日本の一面に気づかされた。また日本と中国の政治的な違いも感じた。プライバシー保護に関する考え方は日本人と中国人で大きく異なることを授業で学んだほか、現在のロシア、ウクライナ間の問題に関しても教授は私とは異なる考え方をしていた。

## ③ 進路への影響について

私は現在四年生であり、今回のスプリングスクールが自分の進路選択に直接与える影響は少ないとは思いますが、今回得た中国語の能力、また異なる国の人とプレゼン等によって意見交換を行う能力は今後の進路においても生かすことができると考えている。